

# 経営比較分析表

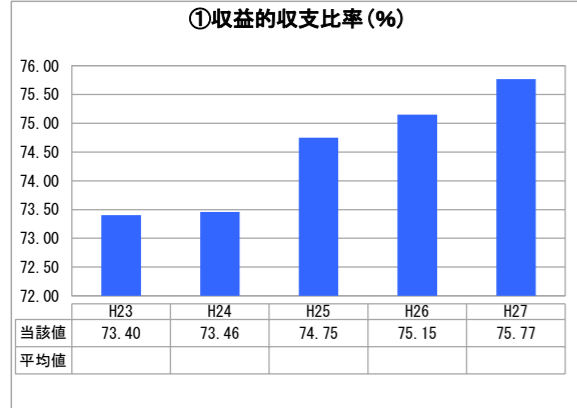
東京都 稲城市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bb1	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	98.81	93.39	2,030

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
87,461	17.97	4,867.06
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
86,779	10.40	8,344.13

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成27年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



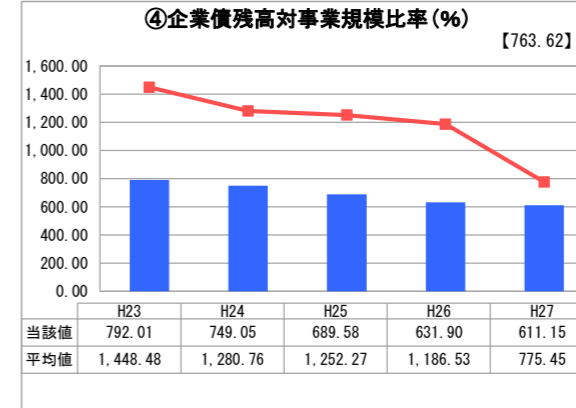
「単年度の収支」



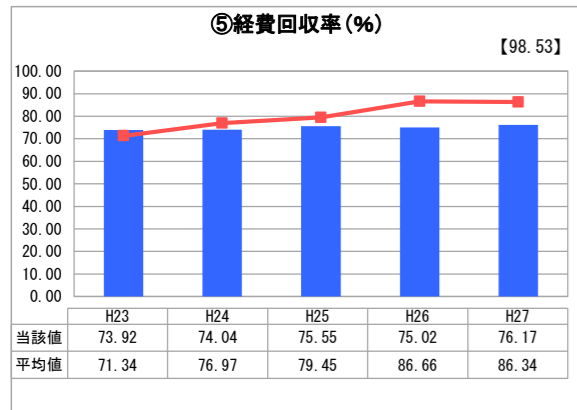
「累積欠損」



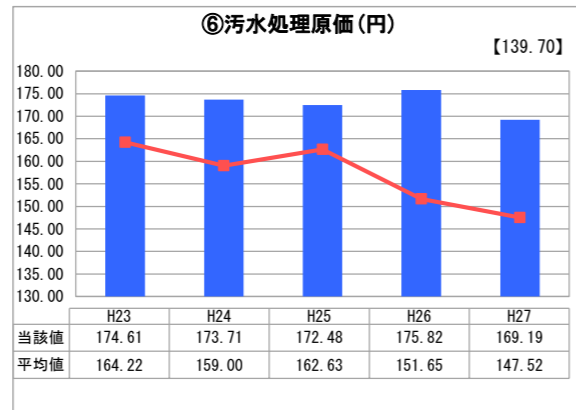
「支払能力」



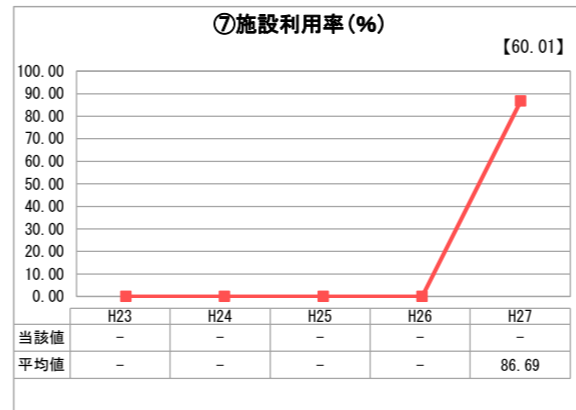
「債務残高」



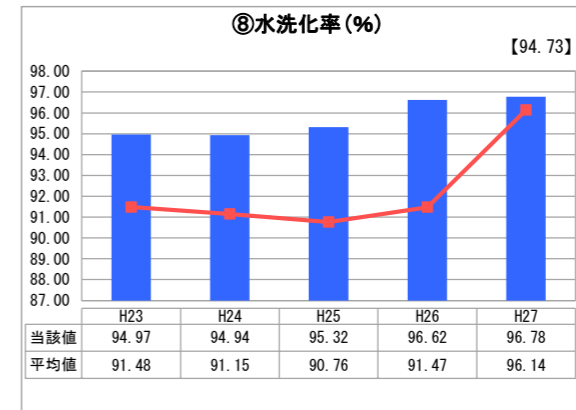
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

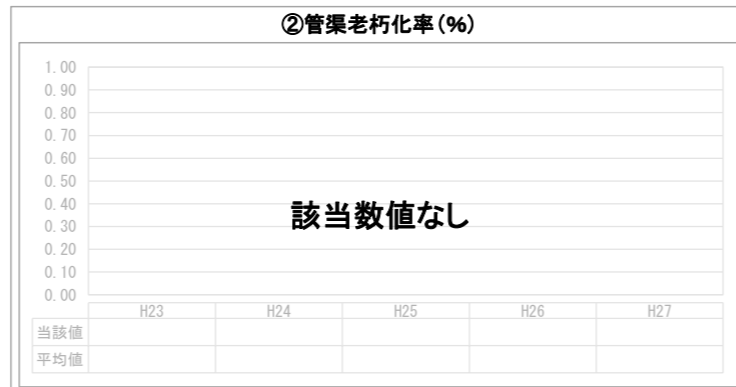


「使用料対象の捕捉」

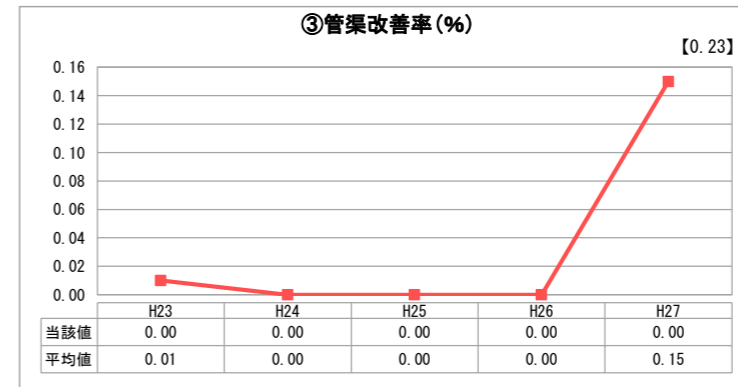
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①「収益的収支比率」につきましてはおよそ76%であり引き続き増加する傾向にありますが、これは高金利時に借り入れた企業債の償還が進み、償還金額が減ったことから増加したものです。

②「企業債残高対事業規模比率」につきましては、企業債の償還が進んだことから引き続き減少しました。

⑤「経費回収率」につきましては、平均値には及ばないものの対前年度で1.15%伸びました。これは、企業債利子償還金等を含む汚水処理費が減額したことから回収率が伸びたものです。また、汚水処理費が減った一方で有収水量が増えたことから、⑥「汚水処理原価」は前年度よりも6.63円下がりました。

### 2. 老朽化の状況について

稲城市の公共下水道事業は昭和56年度から始まり、下水道管きょや人孔(マンホール)等の下水道施設(減価償却期間は50年)は比較的新しいものです。これらの施設を適切に管理するため、市では施設の点検や清掃を毎年行っております。

今後は、施設の老朽化に計画的に対応するため、第四次稲城市長期総合計画期間内に下水道維持管理計画を策定します。

### 全体総括

現在、稲城市では公共下水道の整備区域拡大を図るとともに、供用開始区域における下水道への接続促進活動を行っているところです。水洗化率の上昇による有収水量の増加に加え、企業債利子償還金の減等汚水処理費が減額することから、経費回収率はまだ上がると予想することができます。

しかしながら、老朽化が進む下水道施設については、今後維持管理経費が増大が見込まれます。効率的で効果的な事業を継続的に実施し、安定した市民サービスを提供し続けるためにも、経費回収率を伸ばし、汚水処理原価の縮小につながる見直し等の取り組みが課題です。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。